



平成28年度
(2016 年度)

業 務 年 報

Annual Report for the year 2016

(平成 30 年 1 月)

地方独立行政法人 青森県産業技術センター野菜研究所

Local Independent Administrative Institution

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

Institute of Vegetable Research

平成28年度 業務年報 目次

	頁
I 試験研究	1
1 試験研究概要	1
2 主要な野菜・畑作物の生育状況	6
3 気象表・図	8
II 試験研究成果・普及情報の公表及び研修・技術協力	11
1 試験研究成果・普及情報	11
(1) 普及技術情報	11
(2) 刊行物	12
(3) 学会・研究会	12
(4) 試験研究成果発表会	13
(5) 公開デー	13
(6) 一般雑誌・普及誌・新聞・テレビ・ラジオ	14
(7) 表彰	15
2 研修・技術協力	16
(1) 農業ドクター	16
(2) 講師派遣	16
(3) 審査員派遣	17
(4) 会議・研究会	18
(5) 視察受け入れ	20
(6) 研修受け入れ	20
III 職員研修	20
1 国内研修	20
2 県・産技研修	21
IV 種苗の生産と配布	23
1 作物の原原種の採種	23
2 種苗等の配布	23
V 資格取得	23
VI 総務	24
1 位置・土地・建物	24
2 所掌事務・分掌事務	24
3 組織・職員	24
4 事務分担	25
5 予算	30
VII 圃場利用図	32

1 試験研究概要

(1) 栽培部

ア 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術の開発

(ア) ナガイモの高品質安定生産技術の開発

a ナガイモ栽培技術改善試験

(a) 土壌消毒処理の有無と適正施肥窒素の把握

台風の影響があった今年度の「園試系6」においては、基肥窒素1.0kg/a+追肥窒素0.5kg/a×3回体系が多収で、いも形状が安定していた。

(b) 品質低下要因の解明

ウイルスフリー種苗では土壌消毒を行うことにより平いもと曲がりが増加し、リングは減少した。また、追肥を行わないことにより平いもが増加した。施肥法の違いによるコブいも発生への影響は判然としなかった。

(c) 摘芯栽培法の検討

摘芯処理により総収量に有意な差は認められなかったが、平いもや程度の重いこぶいもの発生は減少する傾向にあり、A品収量は増加した。

b ナガイモ貯蔵技術の改善

収穫時期が長期貯蔵体系における腐敗発生に及ぼす影響

4月から6月1日までの収穫ではやや乾物率が低下する傾向があったが、褐変や腐敗等の障害は見られなかった。

c 簡易地力窒素診断法の実用性評価

COD簡易測定キットによる簡易測定により、0~5.0mg/100gの範囲で可給態窒素量(N03-N)の推定が可能であった。

(イ) ニンニクの新作型開発と高品質安定生産技術の開発

a 珠芽を利用した新作型開発試験

珠芽から効率的に種子りん片を得るには、0.7g以上の珠芽に5℃・2週間処理を加えて植え付け、さらに秋期のトンネル被覆処理を実施し、3月中旬に追肥することが有効であった。

(ウ) 夏秋どりイチゴの高品質安定生産技術

a 主要四季成り性品種の好適栽培法の開発

(a) 長日処理が収量・生育に及ぼす影響

電照処理によるわい化防止効果は確認されたが、増収効果については判然としない結果となった。増収効果が確認されなかった原因として、灌水過多により根張りが弱かったことが影響したと考えられた。

b 摘花房処理が生育・収量に及ぼす影響

放任管理区の総収量、秀優品収量が最も多収となった。市場で取り扱われている15~35玉規格の売上額を試算した結果では、摘花房区の売上額が最も高かった。摘花房+摘花(果)区は株当たりの売上額が最も低かった。

c 隔離床栽培の培地の検討

「もみ殻70%+チャコールモス30%」区が最も収益性が高いことが明らかとなった。

d 四季成り性イチゴ「なつあかり」の開花不良現象の再現試験

夏秋期における開花・ランナー発生は、栽培条件にかかわらず親株と同様の傾向を示すことが明らかとなった。

イ 青森ナガイモの飛躍を目指した生育予測技術と長大系ナガイモ「園試系23号」を活用した輸出規格対応生産技術の開発

(ア) 近接リモートセンシングによる生育計測・収量予測技術

植被率カメラによりナガイモ茎葉の生育状況を計測することが可能で、計測値からナガイモの収量を予測することの可能性が示された。しかし、日射や土壌の乾燥状態等の条件によっては正確な計測が困難な場合もあった。

ウ ニンニクの流通過程での品質低下要因の解明と対策技術の確立

(ア) 流通過程での品質実態調査

a 生産者による収穫後の乾燥実態と氷点下貯蔵後の品質

野菜研におけるテンパリング乾燥は現地慣行乾燥よりくぼみ症の発生が少なく、-2℃貯蔵よりも-3℃で貯蔵した方がくぼみ症の発生が多かった。2月出庫と5月出庫では、-2℃貯蔵では2月出庫の方がやや少ない傾向があったが、-3℃貯蔵では5月出庫の方がくぼみ症の発生が多い傾向が見られた。

b 卸売市場における品質調査

卸売市場によって、くぼみ症の発生率および発生程度は大きく異なった。

(イ) 氷点下貯蔵後の品質に及ぼす栽培条件等の影響

a 場内試験

(a) 生育及び収量

球径及び球重は白玉王が最も大きく、次いで福地ホワイトの透明マルチ、緑マルチ、黒マルチで、無マルチが最も小さかった。また、種子りん片重が大きいほど大きい傾向があった。

b 現地試験

(a) 生育及び収量

現地試験地の収穫期は6月20日～25日で、収穫期の生葉数は試験区間で最大3.0葉の差が見られた。球重が最も重い試験地と軽い試験地の差は25g程度あり、球径が大きいほど裂球が発生しやすい傾向があった。

エ 水田農業の革新技術緊急普及

(ア) ニンニク収穫後の間断乾燥による燃料消費節減技術

a 場内試験

10日間以内の連続乾燥は常時テンパリング乾燥並みの乾燥日数であり、14日間以上の連続乾燥で乾燥日数は減少した。福地ホホワイトでは連続乾燥14日間以上でくぼみ症の発生程度が増加し、白玉王では連続乾燥期間が長くなるにつれてくぼみ症の発生率は増加し、過乾燥で大幅に増加した。

オ 野菜の栽培試験

(ア) 野菜の作況試験

ナガイモの総収量は平年を下回り（383kg/a、平年比90%）、平いもが多く、品質は平年より下回った。ニンニクの収量は平年を上回り（174kg/a、平年比117%）、品質は平年を上回った。

カ 野菜の除草剤、生育調節剤の開発

ネギの定植前雑草茎葉処理におけるNC-622液剤の適用性と倍量葉害、SCC-010液剤の適用性について検討した結果、いずれの剤も実用化可能であると考えられた。

キ 小川原湖しじみ生育環境保全のための水草の堆肥利用評価（野菜）

(ア) 堆肥成分

水草堆肥は、牛ふん堆肥よりpHとECが低く、可給態窒素量は同程度であった。全窒素、炭素率、リン酸はやや少なく、カリウム、マグネシウム、カルシウムは同程度であった。

(イ) ナガイモ

小川原湖の藻類を原料とした水草堆肥を施用して生産されたナガイモは、総収量は牛ふん堆肥並みでA・B品収量はやや優るため、牛ふん堆肥の代替として利用可能である。

(ウ) ダイコン

ダイコン栽培において水草堆肥を施用した場合、収量及び品質は牛ふん堆肥を施用した場合と同等であることから、牛ふん堆肥と同様に利用することが可能であると考えられた。

(エ) ニンニク

総収量は牛ふん堆肥より優り、上物収量は同程度であったため牛ふん堆肥の代替として利用可能である。

ク 新たな土壌管理による高品質農産物生産技術に関する研究

ケ ニンニク大玉栽培

(ア) 土壌高pH管理及び養分付加とニンニクの生育

b 黒ボク土への適応性

土壌pHは転炉石灰区でpH7.8、苦土石灰区でpH7.4、対照区でpH7.0まで上昇した。転炉石灰区は苦土石灰区、対照区よりやや収量は劣ったが、A品率は最も高かった。

(2) 品種開発部

ア 特産野菜優良品種の育成

(ア) ナガイモ優良品種の開発

a 育種素材の養成

ナガイモを継代し、17系統を選抜した。「つくなが1号」と「園試系6」を交配して得られた8系統を養成した。

b 遺伝資源の収集・保存

ナガイモを含むヤマモ42系統を継代栽培し、遺伝資源として保存した。茎頂培養を経由した保存系統11系統を養成した。茎頂培養を経由したウイルスフリー株を新たに1株得た。

(イ) ニンニク優良品種の開発

a 育種素材の養成

稔性系統ニンニクの14系統、放射線照射の8系統をガラス網室で養成し、次代の種球を得た。

b 系統選抜による品種育成

「福地ホホワイト」（黒石A系統）の中から選抜した有望系統を栽培試験に供試した結果、E1、E4を再検討と評価した。

c 遺伝資源の収集・保存

ニンニクの遺伝資源として、保存している26系統を維持した。

(ウ) エダマメ優良品種の開発

a 優良品種の育成

「あおもり福丸」及び育成F7系統を中心に人工交配を行い、種子を得た。F4世代では348個体、F5世代では187個体、F6世代では121個体、F7世代では12系統の種子を得た。

(エ) イチゴ優良品種の開発

a 供試系統の形質調査・選抜

四季成り6系統について収量・品質等を比較した結果、TK10（11sA-e 7e）及びTK15（11sC-f 1e）を有望、TK18（12sG-b 4e）及びTK19（12sG-b 21e）を再検討とした。

b 新配布系統の採苗

来年度収量試験に新たに四季成り系統TK

22、TK23を供試することとし、一季成り系統TK24を農林総研で試験することとした。

イ 特産野菜原原種維持増殖事業

ナガイモ、ニンニクのウイルスフリー株を維持、増殖し、生産現場における優良種苗の確保を図る目的で、ナガイモは直径7.5mm以上のむかご250kg、ニンニクはりん球と珠芽計400kgをJA全農あおもりに供給した。

ウ 青森ナガイモの飛躍を目指した生育予測技術と長大系ナガイモ「園試系23号」を活用した輸出規格対応生産技術の開発

(ウ)長大系ナガイモ「園試系23号」を活用した輸出規格対応生産技術

a品種登録に係わる調査

「園試系23号」は、「園試系6」との区別性が認められた。また、肥大性、収量性に優れていたが、平いものも多かった。

「園試系24号」は、「園試系6」との区別性が認められた。また、収量は多かったが、平いものの発生が多かった。

b最適栽植様式の検討

「園試系23号」は、株間を広げ、種いも重を重くすることで、いも重が増加し、総収量に占める3L以上のいもの割合も高くなった。

エ 寒冷地主産地におけるなたね育成系統の特性評価

地域適応性を検討するために6系統を供試し、「東北101号」を再検討として選抜した

オ 畑作物優良品種の選定

(ア)畑作物優良品種の選定

a小麦優良品種の選定

倒伏が少なく、大粒で容積重が大きく収量が優る「東北232号」と「東北234号」を有望と判定した。

b小麦系統適応性検定試験

小麦10系統を供試し、5系統を有望とし、4系統を再検討、1系統を打ち切りと判定した。

(イ)畑作物等原原種の維持・増殖

a畑作物等(なたね、そば)の原原種の維持及び増殖

なたね・そばの原原種を維持し増殖し、冷蔵庫で保管した。

(ウ)畑作物の栽培試験

a畑作物の作況試験(小麦)

小麦の生育、収量を気象条件との関連で検討したところ、出穂期は平年より6日早い5月16日、成熟期は平年より9日早い7月2日、子実重は61.1kg/a(平年比99%)となった。

b畑作物の作況試験(大豆)

大豆の生育、収量を気象条件との関連で検討した

ところ、開花期は平年より1日遅い7月28日で、子実収量は26.7kg/aで平年比94%となった。

ケ 畑作物原種の生産・供給

そば「階上早生」の原種子を41kg生産した。

(3) 病虫害部

ア 気象変動や生物多様性に適応した特産野菜の安全・安心な病虫害管理技術の研究開発

(ア)特産野菜に発生する病虫害の高感度診断技術の開発と気象変動に適応した発生生態の解明

a病虫害の発生実態と防除技術

(a)ダイコンのキスジノミハムシの発生消長

キスジノミハムシ成虫の誘殺は、黄色粘着トラップでは前年より8半月遅い9月第2半月が発生盛期で、誘殺数は前年より多かった。

(b)ダイコンのキスジノミハムシ多発条件下での防除技術の検討

①ダイコンのキスジノミハムシに対する各種散布剤の防除効果

ダイコンのキスジノミハムシに対し、ベネビアOD、パダンSG水溶剤、テルスター水和剤、アグロスリン水和剤は防除効果が高く、その程度はほぼ同等であった。ハチハチ剤は、これら3剤に比べ残効性がやや劣ると考えられた。

②は種時にフォース粒剤を施用した場合の防除開始時期の検討

ダイコンのキスジノミハムシ中～多発生条件下では、は種時にフォース粒剤4kg/10aを播溝土壌混和した場合の茎葉散布は、開始時期を早めるのに伴い防除効果は高まると考えられた。

(c)収穫後のニンニクのチューリップサビダニ寄生状況

ニンニクにおいて、チューリップサビダニが寄生している可能性のある割れ玉の混入は、保管中のサビダニの移動・増殖を助長すると考えられた。

(d)イチゴ病害の発生状況

三戸地域のイチゴ苗について、炭疽病、萎黄病、疫病の発生が確認された。

(イ)土壌微生物相診断に基づいたニンニク土壌病虫害の総合防除技術の開発

a イモグサレセンチュウ多発圃場における輪作体系の検討

輪作区においても土壌線虫密度は増加しており、今回の輪作体系では線虫密度は抑えられていなかった

たが、輪作区の収穫物で線虫害は見られなかった。

b ニンニク土壤病害虫多発圃場における各種土壌処理剤の効果

(a)黒腐菌核病及びイモグサレセンチュウ多発ほ場における各種土壌処理剤の効果

ダゾメット、ディトラは黒腐菌核病に対してはクロピクより効果は低かったが、イモグサレセンチュウに対して効果は高かった。

(b)紅色根腐病及びイモグサレセンチュウ多発ほ場における各種土壌処理剤の効果

試験ほ場に紅色根腐病菌の発生ムラが見られたことと転炉石灰区のpHが目標pHである7.5に達していなかったことから、転炉石灰での紅色根腐病に対して効果は判然としなかった。イモグサレセンチュウの被害がなかったため、転炉石灰での効果は判然としなかった。

c ガス難透過性フィルムによる土壌くん蒸剤の畦内処理の検討

紅色根腐病に対する被覆資材による効果の差は無かった。イモグサレセンチュウについては、被害が無かったため効果は判然としなかった。クロピク処理を行った2区で無処理と比べ萌芽率が低く、生育状況、収穫物もやや劣っていた。

d 土壌微生物相診断によるほ場診断技術の開発

土壌から抽出したDNAではPCR-DGGE法によるイモグサレセンチュウの検出は困難であり、イモグサレセンチュウと糸状菌の関係性は判然としなかった。微生物相解析を行った結果では、土壌中の線虫相と糸状菌相の関連は判然としなかった。

(f)天敵等の生物多様性を生かした減農薬栽培のための病害虫防除技術の開発

a天敵など生物農薬を利用した野菜の病害虫防除法の開発

(a)夏秋どりイチゴのアザミウマ類に対する捕食性天敵アカメガシワクダアザミウマと薬剤併用の防除効果

夏秋どりイチゴ現地ほ場のアザミウマ防除において、スリムホワイト展張とアカメガシワクダアザミウマと薬剤散布の併用は、農家慣行防除と同等以上にアザミウマ密度を抑制し、化学 農薬散布回数も半分以下に抑制することができた。

イ 青森にんにく革新技術実用化事業

(ア)ニンニク土壤病害防除対策の確立

a血清診断によるイモグサレセンチュウ発生ほ場産ニンニクの収穫適期判定の可能性

血清診断は、収穫物の被害が見られた6月24日以降でも侵入が検出できず、収穫適期の判定ができなかった。

現地ほ場での収穫適期は、収穫物がまだ肥大しきっていないが、被害が見られなかった6月7日と考えられ、グレーゾーンを含む血清診断ではわずかにイモグサレセンチュウをとらえた。

b ニンニクのイモグサレセンチュウの経時的被害状況

日が経つにつれて、全ての区で被害りん球率が増加した。クロロピクリンによる消毒によって被害を抑えていたが、収穫が遅くなれば被害が増加することが明らかになった。

エ 農薬低減技術確立事業

生物くん蒸作物を利用した土壌病害虫防除技術の開発

カラシナは無処理と比較して病害の防除効果が認められたが、生育後半では線虫害に対しては認められず、発芽率が悪く収量も低かった。

オ 農薬安全・国内検疫推進事業

モベントフロアブルの4000倍液2回散布は、収穫後のニンニクのチューリップサビダニの寄生抑制に効果があり実用性がある。

カ 病害虫防除農薬開発

(ア)主要病害に対する新農薬の防除効果

試験薬剤は、下記のとおりであり、ニンニクの白斑葉枯病に対するクプロシールド、ニンニクの黒腐菌核病に対するモンガリット粒剤、ゴボウの黒あざ病に対するユニフォーム粒剤、タマネギの灰色腐敗病に対するダコニールエースを除き、防除効果が認められ、薬害は認められなかった。

・ニンニクの白斑葉枯病に対するクプロシールドの1000倍

・ニンニクのさび病に対するメジャーフロアブル3000倍、アフェットフロアブル2000倍

・ニンニクの黒腐菌核病に対するアフェットフロアブル1%、0.5%湿粉衣

・ニンニクの黒腐菌核病に対するモンガリット粒剤9kg/10a全面土壌混和

・ヤマノイモの青かび病に対するベルコートフロアブル200倍1分浸漬、ホーマイ水和剤200倍、10分間浸漬

・ヤマノイモの根腐病に対するユニフォーム粒剤18kg/10a植付前作条土壌混和

・ヤマノイモの葉渋病に対するオンリーワンフロアブル1000倍、ベンレート水和剤2000倍、メジャーフロアブル2000倍、フジドーLフロアブル500倍

・ゴボウの黒あざ病に対するユニフォーム粒剤18kg/10a植付前作条土壌混和

(イ)主要害虫に対する新農薬の防除効果

試験薬剤は、下記のとおりであり、いずれの剤も

防除効果が認められ、薬害は認められなかった。

- ・ニンニクのネギコガに対するアディオン乳剤の2000倍液散布及びダントツ水溶剤の2000倍

- ・ニンニクのイモグサレセンチュウに対するキルパー液剤の60 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a土壌注入後被覆

- ・ヤマノイモのアブラムシ類に対するトランスフォームフロアブルの2000倍液散布

- ・ヤマノイモのアブラムシ類に対するダントツ粒剤の6kg/10a植付時作条処理土壌混和及び9kg/10a植付時作条処理土壌混和

- ・ダイコンのネキリムシに対するプリロッソ粒剤6kg/10aは種時播溝土壌混和

- ・ゴボウのヒョウタンゾウムシ類に対するアクセルフロアブル1000倍、アタブロンフロアブル2000倍

- ・ゴボウのキタネグサレセンチュウに対するBCI-133粒剤20kg/10aは種前全面土壌混和

2 主要野菜・畑作物の生育状況

(1) 野菜

ア ナガイモ

5月25日植付けの露地普通栽培とし、供試系統は園試系6（2年子）とした。

萌芽揃期は6月26日（平年より3日早く）、植付けから萌芽揃までの日数は32日（平年より2日短い）であった。7、8月、地上部の生育が過繁茂となった。

台風により、落葉や倒伏がみられたが、9月の生育量は、地上部、地下部とも平年を上回って推移した。

総収量は、3,832kg/10a（平年比90%）、上物収量は360kg/10a（同24%）、平いも、リングが多く、こぶ、曲がりが少なかったものの、下物収量も平年より多かった（平年比：126%）。

表1 ナガイモの収量調査

種イモ	年次	総収量 (kg/10a)	上物収量(kg/10a)				下物収量(kg/10a)					
			4L-3L	2L-L	M以下	計	平	曲がり	コブ・しわ	尻コブ・リング	その他	計
2年子	本年	3,832	0	250	110	360	2,945	5	179	334	9	3,472
	平年	4,278	1,093	379	48	1,521	1,536	228	532	264	197	2,757
	平年比	90	0	66	229	24	192	2	34	126	5	126

注) 平年: 前9か年の平均値

上物収量: JA全農あおもりやさしい出荷規格(H26まで)の「丸A」に相当する収量

イ ニンニク

平成27年10月1日植付けの露地普通栽培とし、供試系統は福地ホワイト（黒石A）を供試した。

消雪が早まり、りん片分化期が4月12日で平年より11日早まった。高温の影響で収穫期が6月21日と平年（7月4日）より13日早かった。7

月2日の平均乾燥球重は105.7gで平年を上回り（平年比132%）、総収量は1,737kg/10a（同117%）、上物収量が1,447kg/10a（同126%）であった。下物収量は290kg/a（同87%）で、奇形（同137%）は多く、裂球が多かった（同110%）。

表2 ニンニクの収量調査

年次	収穫期 (月/日)	総収量 (kg/10a)	上物収量(kg/10a)					下物収量(kg/10a)				暦日(7月2日) 乾燥球重 (g)
			2L	L	M	S	計	奇形	裂球	その他	計	
本年	6/21	1,737	428	900	119	0	1,447	145	145	0	290	105.7
平年	7/4	1,479	166	814	162	5	1,147	106	132	94	332	80.2
平年比	-13日	117	258	111	73	0	126	137	110	0	87	132

注) 平年: 収量は平成21年を除く前10か年の平均値。暦日の乾燥球重は平成21、22年を除く前10か年の平均値（平成20年までは旧圃場のデータ）

上物: JA全農あおもりやさしい出荷規格のA品、下物: B、C品

(2) 畑作物

ア 小麦

平成27年9月21日に播種し、品種はネバリゴシを供試した。

出芽期は平年より2日早く、出芽も良好であった。越冬前は日照時間が長かったことから、茎数が平年を上回った。越冬後は、圃場の消雪が平年より28日早くなったことから、幼穂形成期は平年より12日早い3月19日となった。その

後の気温は、高めに推移し、出穂期が平年より6日、開花期が7日早まった。穂数が平年より少なかったが、倒伏した。成熟期は平年より9日早い7月2日となった。

収量構成要素は、穂数638本/m²(平年比90%)、千粒重34.1g(同99%)、一穂粒数29.0粒(同107%)、子実重61.1kg/a(同99%)となった。

表3 小麦の生育調査及び収量調査

年次	出芽期	出芽 良否	幼穂形成 期	止葉抽出 期	出穂期	開花期	成熟期	倒伏 程度	出穂期～ 成熟期所 要日数	稈長	穂長	穂数	一穂粒数	子実重
	月日		月日	月日	月日	月日	月日		日	cm	cm	本/m ²	粒/穂	kg/a
本年	9月26日	良	3月19日	5月7日	5月16日	5月24日	7月2日	3.4	47	99	7.9	638	29.0	61.1
平年	9月28日	良	3月31日	5月13日	5月22日	5月31日	7月11日	2.9	50	94	8.1	709	27.2	61.7
平年差・比	-2日		-12日	-6日	-6日	-7日	-9日	+0.5	-3日	105	98	90	107	99

注) 平年:平成19～26年(8か年)の平均値(平成24年産は出芽不良によりデータから除外)

倒伏程度は、0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚 の6段階

イ 大豆

5月15日に播種し、品種はおおすずを供試した。

8月後半から暴風雨で気温が、低めから平年並みに推移した。主茎長は平年を上回り、分枝数は平年並であったが、開花期は平年より1日遅い7月28日となった。

成熟期は平年より1日遅い10月14日となった。a当たり収量は26.7kg(平年比94)となった。

収量構成要素は、稈実莢数27.2莢/本(平年比96)、一莢粒数1.40粒/莢(平年比98)、百粒重は37.1g(平年比104)となった。

表4 大豆の生育調査及び収量調査

年次	開花期	成熟期	わい化病 株率	主茎長	主茎 節数	分枝 数	最下位着 莢節位高	稈実 莢数	一莢 粒数	全重	子実 重	百粒重
	月日	月日	%	cm	節	本/本	cm	莢/本	粒/莢	kg/a	kg/a	g
本年	7月28日	10月14日	2.7	74	15.9	4.4	12.1	27.2	1.40	58.6	26.7	37.1
平年	7月27日	10月13日	1.6	69	15.8	2.5	16.0	28.2	1.42	57.9	28.4	36.5
平年差・比	+1日	+1日	1.1	106	101	176	76	96	98	101	94	104

注) 平年:平成19～27年の前9か年の平均値

平成 28 年気象表

平年：1986年（S61）～ 2015年（H27）

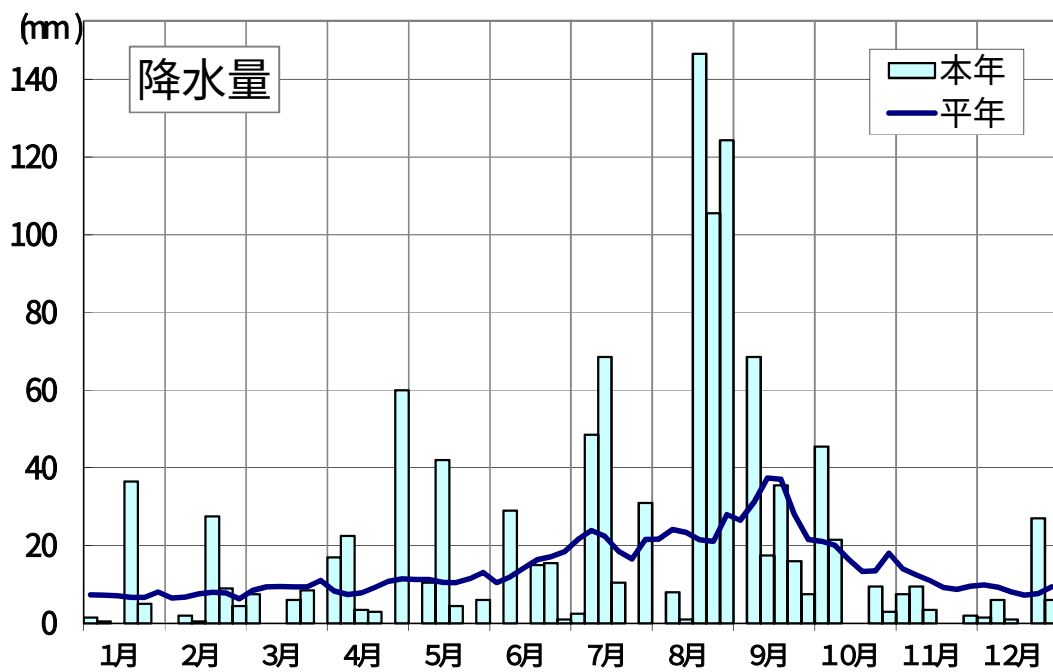
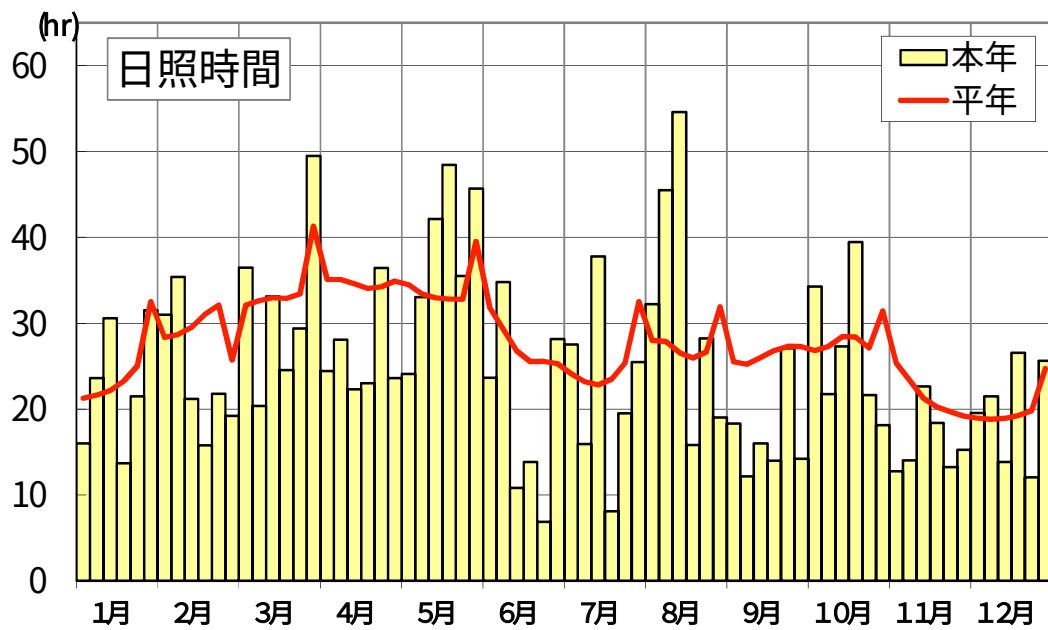
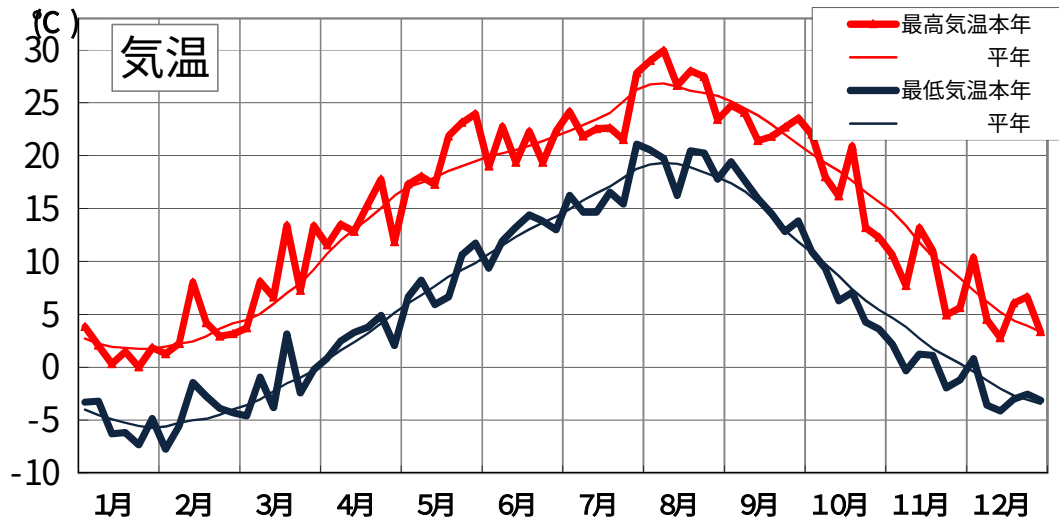
月	項 目	最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		平均気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (時間)	
	半 旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1 月	第 1 半旬	3.8	2.7	-3.3	-4.0	1.1	-0.6	1.5	7.4	16.0	21.3
	第 2 半旬	2.1	2.2	-3.2	-4.5	-0.6	-1.0	0.5	7.3	23.6	21.6
	第 3 半旬	0.3	1.9	-6.3	-4.9	-2.7	-1.4	0.0	7.1	30.6	22.2
	第 4 半旬	1.5	1.8	-6.2	-5.3	-1.8	-1.5	36.5	6.7	13.7	23.3
	第 5 半旬	0.0	1.8	-7.3	-5.5	-3.0	-1.7	5.0	6.7	21.5	25.0
	第 6 半旬	1.9	1.7	-4.9	-5.7	-1.2	-1.8	0.0	8.1	31.5	32.5
	月平均・合計	1.6	2.0	-5.2	-5.0	-1.4	-1.3	43.5	43.2	136.9	145.9
2 月	第 1 半旬	1.3	2.0	-7.8	-5.6	-2.4	-1.7	0.0	6.5	31.0	28.3
	第 2 半旬	2.2	2.2	-5.5	-5.3	-1.5	-1.4	2.0	6.8	35.4	28.7
	第 3 半旬	8.0	2.5	-1.5	-5.0	3.0	-1.1	0.5	7.6	21.2	29.5
	第 4 半旬	4.2	2.9	-2.8	-4.9	0.4	-0.8	27.5	8.0	15.8	31.1
	第 5 半旬	2.9	3.7	-3.9	-4.5	-0.8	-0.3	9.0	7.8	21.8	32.1
	第 6 半旬	3.2	4.2	-4.3	-4.0	-0.5	0.2	4.5	6.3	19.2	25.7
	月平均・合計	3.6	2.9	-4.3	-4.9	-0.3	-0.8	43.5	43.1	144.4	175.4
3 月	第 1 半旬	3.7	4.5	-4.6	-3.6	-0.6	0.5	7.5	8.5	36.5	32.1
	第 2 半旬	8.1	5.1	-0.9	-3.0	4.1	1.0	0.0	9.4	20.4	32.6
	第 3 半旬	6.6	6.0	-3.8	-2.3	1.4	1.8	0.0	9.5	33.1	33.0
	第 4 半旬	13.4	7.0	3.1	-1.5	8.6	2.7	6.0	9.4	24.5	32.9
	第 5 半旬	7.3	7.9	-2.4	-1.0	2.2	3.4	8.5	9.4	29.4	33.4
	第 6 半旬	13.4	9.2	-0.2	-0.3	6.1	4.4	0.0	11.0	49.5	41.3
	月平均・合計	8.7	6.6	-1.5	-1.9	3.6	2.3	22.0	57.2	193.4	205.4
4 月	第 1 半旬	11.5	10.8	0.9	0.7	6.1	5.7	17.0	8.3	24.4	35.1
	第 2 半旬	13.5	12.0	2.5	1.6	8.0	6.7	22.5	7.5	28.1	35.1
	第 3 半旬	12.8	13.0	3.3	2.4	7.6	7.6	3.5	7.9	22.3	34.6
	第 4 半旬	15.3	14.0	3.8	3.2	10.2	8.5	3.0	9.2	23.0	34.1
	第 5 半旬	17.8	15.0	4.9	4.1	11.5	9.5	0.0	10.8	36.5	34.2
	第 6 半旬	11.9	16.2	2.0	5.1	7.5	10.6	60.0	11.4	23.6	34.9
	月平均・合計	13.8	13.5	2.9	2.9	8.5	8.1	106.0	55.1	157.9	208.0
5 月	第 1 半旬	17.3	17.0	6.6	6.0	12.7	11.4	0.0	11.3	24.1	34.5
	第 2 半旬	18.1	17.5	8.2	6.8	13.0	12.0	10.5	11.3	33.1	33.4
	第 3 半旬	17.3	17.9	5.9	7.7	12.2	12.6	42.0	10.6	42.1	33.0
	第 4 半旬	21.9	18.6	6.7	8.6	14.5	13.4	4.5	10.5	48.5	32.8
	第 5 半旬	23.1	19.0	10.6	9.2	17.1	13.9	0.0	11.5	35.5	32.8
	第 6 半旬	24.0	19.5	11.7	9.9	17.5	14.4	6.0	13.1	45.7	39.5
	月平均・合計	20.3	18.3	8.3	8.0	14.5	13.0	63.0	68.2	228.9	206.1
6 月	第 1 半旬	19.0	20.0	9.4	10.7	14.2	15.1	0.0	10.5	23.6	31.8
	第 2 半旬	22.8	20.2	11.9	11.5	17.3	15.5	29.0	11.9	34.8	29.3
	第 3 半旬	19.4	20.5	13.2	12.3	15.7	16.1	0.0	14.1	10.8	26.8
	第 4 半旬	22.3	20.9	14.4	13.1	18.1	16.6	15.0	16.4	13.9	25.5
	第 5 半旬	19.4	21.4	13.8	13.7	16.0	17.2	15.5	17.1	6.9	25.6
	第 6 半旬	22.3	21.9	13.0	14.2	17.0	17.8	1.0	18.4	28.2	25.3
	月平均・合計	20.9	20.8	12.6	12.6	16.4	16.4	60.5	88.4	118.1	164.3

平成 28 年気象表

平年：1986年（S61）～ 2015年（H27）

月	項 目	最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		平均気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (時間)	
	半 旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	第 1 半旬	24.2	22.4	16.3	15.0	20.1	18.3	2.5	21.6	27.5	24.1
	第 2 半旬	21.9	22.9	14.7	15.8	17.6	19.0	48.5	23.9	16.0	23.2
	第 3 半旬	22.5	23.5	14.7	16.5	18.4	19.6	68.5	22.4	37.8	22.8
	第 4 半旬	22.6	24.1	16.6	17.1	19.0	20.2	10.5	18.5	8.1	23.5
	第 5 半旬	21.5	25.1	15.4	17.9	17.8	21.1	0.0	16.6	19.5	25.4
	第 6 半旬	27.9	26.3	21.1	18.8	23.7	22.1	31.0	21.6	25.5	32.5
	月平均・合計	23.4	24.0	16.5	16.8	19.4	20.0	161.0	124.4	134.4	151.6
8月	第 1 半旬	29.0	26.8	20.5	19.2	23.9	22.5	0.0	21.6	32.2	28.0
	第 2 半旬	30.0	26.8	19.8	19.3	24.5	22.6	8.0	24.1	45.5	27.9
	第 3 半旬	26.6	26.6	16.3	19.3	21.2	22.5	1.0	23.4	54.6	26.5
	第 4 半旬	28.0	26.2	20.5	18.9	23.2	22.1	146.5	21.5	15.8	25.9
	第 5 半旬	27.5	25.9	20.2	18.4	23.3	21.8	105.5	21.1	28.2	26.7
	第 6 半旬	23.4	25.7	17.8	17.9	20.7	21.5	124.3	28.0	19.0	31.9
	月平均・合計	27.4	26.3	19.2	18.8	22.8	22.2	385.3	139.8	195.4	166.9
9月	第 1 半旬	24.8	25.2	19.4	17.4	21.1	21.0	0.0	26.6	18.3	25.5
	第 2 半旬	24.1	24.5	17.7	16.6	20.4	20.3	68.5	31.1	12.2	25.2
	第 3 半旬	21.4	23.8	16.0	15.6	18.4	19.4	17.5	37.4	16.0	26.0
	第 4 半旬	21.8	23.0	14.5	14.3	17.8	18.4	35.5	37.1	14.0	26.8
	第 5 半旬	22.7	22.0	12.8	12.9	17.3	17.3	16.0	28.0	27.1	27.3
	第 6 半旬	23.6	21.1	13.8	11.8	18.4	16.3	7.5	21.6	14.2	27.3
	月平均・合計	23.1	23.2	15.7	14.8	18.9	18.8	145.0	181.8	101.7	158.2
10月	第 1 半旬	22.0	20.2	10.9	10.8	16.5	15.4	45.5	21.1	34.3	26.8
	第 2 半旬	18.0	19.3	9.4	9.8	13.1	14.4	21.5	20.0	21.8	27.3
	第 3 半旬	16.2	18.6	6.3	8.6	10.8	13.5	0.0	16.4	27.3	28.4
	第 4 半旬	20.9	17.6	7.1	7.4	13.6	12.4	0.0	13.3	39.5	28.4
	第 5 半旬	13.2	16.5	4.3	6.3	8.8	11.3	9.5	13.6	21.7	27.1
	第 6 半旬	12.3	15.6	3.6	5.4	8.3	10.5	3.0	18.1	18.1	31.5
	月平均・合計	17.1	18.0	6.9	8.0	11.8	12.9	79.5	102.4	162.5	169.5
11月	第 1 半旬	10.6	14.7	2.1	4.6	6.1	9.6	7.5	14.0	12.8	25.4
	第 2 半旬	7.7	13.4	-0.3	3.8	3.3	8.6	9.5	12.5	14.0	23.3
	第 3 半旬	13.2	11.8	1.2	2.7	7.6	7.2	3.5	11.1	22.7	21.3
	第 4 半旬	11.0	10.5	1.1	1.7	5.9	6.0	0.0	9.2	18.4	20.3
	第 5 半旬	4.9	9.5	-2.0	1.1	1.4	5.1	0.0	8.7	13.2	19.7
	第 6 半旬	5.6	8.4	-1.2	0.4	2.0	4.2	2.0	9.5	15.3	19.2
	月平均・合計	8.8	11.4	0.2	2.4	4.4	6.8	22.5	65.1	96.3	129.1
12月	第 1 半旬	10.4	7.2	0.8	-0.4	6.0	3.3	1.5	9.9	19.6	18.9
	第 2 半旬	4.5	6.2	-3.6	-1.2	0.3	2.4	6.0	9.3	21.5	18.8
	第 3 半旬	2.8	5.2	-4.1	-2.0	-0.7	1.5	1.0	8.1	13.9	18.9
	第 4 半旬	6.1	4.4	-3.0	-2.7	1.7	0.8	0.0	7.3	26.6	19.3
	第 5 半旬	6.7	3.9	-2.5	-3.1	2.1	0.4	27.0	7.7	12.1	19.8
	第 6 半旬	3.3	3.4	-3.1	-3.5	-0.1	0.0	6.0	9.4	25.6	24.7
	月平均・合計	5.6	5.1	-2.6	-2.2	1.6	1.4	41.5	51.7	119.2	120.5

平成 26年気象グラフ



II 試験研究成果・普及情報の公表及び研修・技術協力

1 試験研究成果・普及情報

① 普及技術情報

区 分	事 項 名
指導参考資料	ニンニク葉枯病に対するアゾキシストロビン水和剤（アミスター 20フロアブル）による防除法
	ながいも高支柱栽培の増収効果
	「にんにくの乾燥チェックリスト」の活用法
農薬関係資料	ながいも（やまのいも）の青かび病に対する銅水和剤（IGボルドー 66D）、チウラム・ベノミル水和剤（ベンレート 水和剤 20）の使い方
	ねぎのべと病に対するピコキシストロビン水和剤（メジャーフロアブル）の使い方
	ながいも（やまのいも）のネキリムシ類に対するテフルトリン粒剤（フォース粒剤）の使い方
	だいこんのキスジノミハムシに対するカルタップ水溶剤（パダン SG水溶剤）の使い方
	ねぎのアザミウマ類に対するシアントラニリプロール水和剤（ベリマーク SQ）の使い方
	ねぎのアブラムシ類に対するトルフェンピラド乳剤（ハチハチ乳剤）の使い方
	にんにくのチューリップサビダニに対するトルフェンピラド乳剤（ハチハチ乳剤）の使い方

② 刊行物

- ア 平成 27年度 試験成績概要集 (平成 28年 8 月、60部発行)
- イ 野菜研ニュース№ 1 4 (平成 28年 4 月、ホームページ)
- ウ 野菜研ニュース№ 1 5 (平成 28年 7 月、ホームページ)
- エ 野菜研ニュース№ 1 6 (平成 28年 10月、ホームページ)
- オ 野菜研ニュース№ 1 7 (平成 29年 2 月、ホームページ)

(3) 学会研究会等報告

著者、発表者	題名	雑誌名等 (号、ページ)	発表月	投稿先	論文 / 講演要旨
町田創、伊藤篤史、庭田英子	四季成り性イチゴ品種「なつあかり」の春定植作型における冷蔵ランナー苗を用いた挿し苗育苗方法の検討	東北農業研究第 6 9 号	H28.12	東北農業試験研究協議会	論文
前嶋敦夫	積雪メッシュデータによる小麦品種「もち姫」の栽培適地の推定	東北農業研究第 6 9 号	H28.12	東北農業試験研究協議会	論文
新藤潤一	夏まきダイコンのキシジノミハムシに対する体系防除の効果	北日本病害虫研究会第 6 7 号	H28.12	園芸学会	講演要旨
町田創	温室ハイブリッド加温設備の消費熱量割合	日本気象学会全国大会講演要旨集	H29.3	日本気象学会	講演要旨
今智穂美	青森県におけるニンニクの生育および収量に及ぼす気象の影響	園芸学研究第 16 巻別冊 1	H29.3	園芸学会	講演要旨

(4) 野菜研究所試験研究成果発表会

日時 平成 29 年 2 月 1 日 (金)

場所 野菜研究所 大会議室 (六戸町大字犬落瀬字柳沢 91)

参集範囲

(独) 種苗管理センター、農家、農業関係団体、各市町村、県 (農林水産部各課、各地域県民局地域農林水産部、病虫害防除所、宮農大学校)、産技センター (関係農林部門研究所)

発表内容

- ・夏秋ギク「精の一世」の施肥量と調製重の関係
農総研 花き部 研究管理員 東 秀典
- ・アルストロメリアの秋定植による収穫時期の移動と収益の向上
農総研 花き部 研究管理員 加藤 直幹
- ・ナガイモの高支柱栽培における収量・品質
栽培部 部長 鎌田 直人
- ・燃費削減とくぼみ症を軽減するニンニク間断乾燥技術
栽培部 主任研究員 今 智穂美
- ・新規天敵 アカガシクダアザミを活用した夏秋どりイチゴのアザミ類防除
病虫害部 研究管理員 新藤 潤一
- ・イモグサレセンチュウ防除対策の取組み
病虫害部 研究員 青山 理絵
- ・現在取り組んでいるナガイモ、ニンニク、イチゴの品種育成
品種開発部 部長 細田 洋一
- ・今、注目されている春まき夏どりのタマネギ栽培
品種開発部 部長 細田 洋一

(5) 野菜研究所 (農産物加工研究所、農林総合研究所藤坂稲作部) 公開デー

日時 平成 28 年 9 月 9 日 (金)

場所 野菜研究所 (六戸町大字犬落瀬字柳沢 91)

来場者 450 人

内容

- ・ミニ講座、所内見学
- ・野菜販売、加工品など物産販売
- ・お米、加工品の試食
- ・農業機械、ハウス資材展示
- ・併催行事 にんにく共進会

(6) 一般雑誌・普及誌・ラジオ

ア 雑誌「あおもり農業」

題 名	巻号	頁	所属	氏名
夏秋いちご「なつあかり」のプレミアム化に向けた取組	67-5	30-32	栽培部	町田創
新規天敵資材アカメガシワクダアザミウマについて	67-8	21-22	病虫部	新藤潤一
冬春まき栽培におけるタマネギ生産安定化技術	67-12	19-20	品種開発部	鈴木聡
ながいもの切りいも種子の特性と利用上の留意点	67-12	20-23	栽培部	鎌田直人

イ 雑誌「米麦改良」

題 名	巻号	頁	所属	氏名
もち小麦「もち姫」の青森県への導入と栽培関連試験について	米麦改良 2016-5	2-9	品種開発部	前嶋敦夫

ウ 雑誌「グリーンレポート」

題 名	巻号	頁	所属	氏名
ニンニク周年供給のための収穫後処理技術	グリーンレポート 2017-1	6-7	栽培部	今智穂美

エ ラジオ

月 .日	発信先	発信内容	所属	氏名
5.16	RAB「農事放送」	ながいもの高品質・多収生産技術について	栽培部	鎌田直人
6.13	RAB「農事放送」	夏秋いちごの高品質生産のポイントについて	栽培部	町田創
8.22	RAB「農事放送」	夏に寒じめ栽培の奨め	栽培部	町田創
11.28	RAB「農事放送」	寒じめ栽培のハウス管理のポイント	栽培部	町田創
1.16	RAB「農事放送」	ねぎの春まき栽培の育苗管理について	栽培部	今智穂美

オ 新聞

月 .日	発信先	発信内容	所属	氏名
7月	農業共済新聞	にんにくのおんぶ症りん片とその発生条件	栽培部	今智穂美
7月	東奥日報	キュウリの実から葉がニョッキ	品種開発部	細田洋一
7月	東奥日報	青森産技センター報告 16 もち性小麦品種「もち姫」	品種開発部	前嶋敦夫
9月	東奥日報	青森産技センター報告 25 夏秋イチゴ「なつあかり」	栽培部	町田創
11月	日本農業新聞	ニンニク虫害防げ	病虫部	新藤潤一
12月	東奥日報	青森産技センター報告 34 ニンニクのくぼみ症対策	栽培部	今智穂美
2月	デーリー東北	野菜研究所研究成果発表会	—	—
3月	東奥日報	寒締め栽培の仕組み、冬の農業の試験取組状況について	栽培部	町田創

(7) 表彰

受賞者	月日	受賞名	概要（又は理由）
なし			

2 研修・技術協力

(1) 農業ドクター派遣

担当部所	担当者	内容	日付	依頼者
品種開発部	細田洋一	にんにくの小珠芽を利用した原種生産	H27.10～ H28.8	全農青森県本部
栽培部	町田創	夏秋いちご「なつあかり」の開花不順の原因解明。	H28.4～11	八戸市、南部町農家

(2) 講師派遣

担当部所	担当者	内容	日付	依頼者
栽培部	今智穂美	にんにく高品質安定生産技術研修会	5月	青森県農産園芸課
	鎌田直人 町田創	ながいも栽培技術研修会	6月	青森県農産園芸課
	今智穂美	土づくり指導力向上研修	7月	青森県食の安全・安心推進課
	鎌田直人 今智穂美 町田創	ながいも栽培技術研修会	8月	青森県農産園芸課
	今智穂美	にんにく高品質安定生産技術研修会	9月	青森県農産園芸課
	鎌田直人	ながいも若手塾集合研修	10月	青森県農産園芸課
	鎌田直人	ながいも等の台風被害に係る技術対策会議	11月	青森県農産園芸課
	今智穂美	にんにく講習会	2月	田子町
品種開発部	細田洋一	たまねぎ栽培振興研修会	1月	青森県農村整備課
病虫部	新藤潤一	夏イチゴ栽培セミナー	4月	岩手大学
	新藤潤一 青山理絵	にんにく高品質安定生産技術研修会	5月	青森県農産園芸課
	新藤潤一	ながいも栽培技術研修会	6月	青森県農産園芸課
	新藤潤一 加賀友紀子 青山理絵	病害虫及び防除に関する講義・実習	7月	営農大学校
	新藤潤一	ながいも栽培技術研修会	8月	青森県農産園芸課
	新藤潤一	にんにく高品質安定生産技術研修会	9月	青森県農産園芸課
	新藤潤一 加賀友紀子 青山理絵	病害虫及び防除に関する講義・実習	9月	営農大学校
	加賀友紀子	病害虫及び防除に関する講義	11月	営農大学校
	新藤潤一	病害虫及び防除に関する講義	11月	営農大学校
	加賀友紀子	いちご病害等に関する研修会	1月	八戸いちご生産組合
	加賀友紀子	いちご病害等に関する研修会	1月	JA八戸いちご部会研修会
	新藤潤一	ながいも病害虫防除講習会	2月	JA+和田おいらせ
	新藤潤一	にんにく講習会	2月	田子町

(3) 審査員派遣

担当部所	担当者	内容	日付	依頼者
所長	西澤登志樹	にんにく原種圃審査会	H28.4.27	全農あおもり
	西澤登志樹	にんにく共進会審査会	H28.9.8	全農あおもり
	西澤登志樹	チャレンジ研究審査	H28.9.27	青森産技
	西澤登志樹	ながいも共進会審査会	H29.1.17	全農あおもり
栽培部	今智穂美	にんにく共進会審査会	H28.9.8	全農あおもり
	町田創	堆きゅう肥品評会審査基準検討会	H28.11.29	全農あおもり
	町田創	プロジェクト研究発表会審査	H29.1.12	営農大学校
	鎌田直人	園芸施設共済部会	H29.3.10	青森県農業共済連合会
	鎌田直人 齋藤生	ながいも共進会審査会	H29.1.17	全農あおもり
品種開発部	細田洋一 對馬由記子	にんにく原種圃審査会	H28.4.27	全農あおもり
	細田洋一	にんにく優良種苗検査	H28.6.7	全農あおもり
	前嶋敦夫	ながいも原種検査会	H28.7.25	全農あおもり
	細田洋一 前嶋敦夫	ながいも原種検査会	H28.8.18	全農あおもり
	細田洋一	ながいも原種検査会	H28.9.6	全農あおもり
	前嶋敦夫	ながいも原種検査会	H28.9.28	全農あおもり
	細田洋一	畑作物共済部会（ホップ）	H28.11.25	青森県農業共済連合会
	細田洋一	畑作物共済部会（大豆）	H29.2.13	青森県農業共済連合会
病虫部	青山理絵	にんにく原種圃審査会	H28.4.27	全農あおもり
	加賀友紀子	ながいも原種検査会	H28.8.18	全農あおもり

(4) 会議・研究会

日付	場所	主催者	担当者	内容
4.25	盛岡市	岩手大学	町田創	夏イチゴセミナー
5.23	六戸町	野菜研	西澤登志樹、今満、今智穂美、對馬由記子、新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	第1回イモグサレセンチュウ研究連絡会議
6.8	つがる市	転炉スラグ活用技術研究会	今智穂美	転炉スラグ活用技術研究会
5.24	六戸町	県農産園芸課	西澤登志樹、今智穂美、鎌田直人、今満新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	にんにく高品質安定生産技術研修会
6.27	六戸町	県農産園芸課	西澤登志樹、今智穂美、鎌田直人、齋藤生、町田創、細田洋一、前嶋敦夫、今満、新藤潤一	ながいも栽培技術研修会
6.30～7.1	山形市 寒河江市	東北地域農業関係場所長会	西澤登志樹	東北地域農業関係場所長会議
7.6～7	鶴岡市	東北土壌肥料学会	今智穂美	東北土壌研究会
7.11～12	六戸町 弘前市	農研機構	西澤登志樹、細田洋一、鈴木聡、新藤潤一、加賀友紀子	業務・加工用タマネギ現地検討会
7.21～22	佐賀市	農研機構	加賀友紀子	SIR還元消毒ユニット中間成績検討会
7.26	むつ市	県農産園芸課	對馬由記子、町田創	夏秋イチゴ生産技術現地検討会
7.27～28	能代市	東北農業研究センター	鎌田直人、對馬由記子、前嶋敦夫、齋藤生	東北農業試験研究推進会議野菜夏期研究会
8.1～2	三沢市 六戸町	農研機構	西澤登志樹、今満、新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	SIRユニット5中間現地検討会
8.4	六戸町	県農産園芸課	西澤登志樹、鎌田直人、新藤潤一、町田創、今智穂美、齋藤生	ながいも栽培技術研修会
8.10	青森市	東北農業研究センター	西澤登志樹、鎌田直人、町田創、今智穂美、青山理絵	東北農業試験研究発表会
8.24～25	徳島市	農研機構	新藤潤一	天敵利用研究会
8.25～26	仙台市	東北農業研究センター	青山理絵	東北農業試験研究推進会議病害虫研究会
8.25～26	十和田市 八戸市	東北農業研究センター	西澤登志樹、鎌田直人、町田創	東北農業試験研究推進会議作業技術研究会
8.29～30	弘前市 黒石市	東北農業研究センター	町田創	農業気象学会東北支部大会
9.1～2	東京都	農研機構	青山理絵	SIR事業ユニット5中間成績検討会
9.8	六戸町	J A全農あおもり	西澤登志樹、鎌田直人、今智穂美	にんにく共進会審査
9.29～30	福島市	日本植物病理学会東北支部	加賀友紀子	東北支部会
10.3～4	盛岡市	岩手大学	町田創	「なつあかり」研究会
10.11	六戸町	野菜研	西澤登志樹、今満、今智穂美、對馬由記子、新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	第2回イモグサレセンチュウ研究連絡会議
10.27	六戸町	野菜研	西澤登志樹、今満、鎌田直人、今智穂美、齋藤生、町田創、前嶋敦夫	ながいも等の台風被害に係る技術対策会議
11.1～2	盛岡市	日本植物防疫協会	新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	新農薬実用化試験成績検討会
11.40	青森市	農林水産政策課	今満	オゾン水の利活用に関する勉強会
12.20～21	東京都	日本植物生育調節剤研究協会	鎌田直人	野菜除草剤成績検討会
12.21	六戸町	野菜研	全職員	ながいも等の台風被害に係る種いも等確保技術対策会議

日付	場所	主催者	担当者	内容
1.11～12	東京都	日本植物防疫協会	新藤潤一、加賀友紀子	薬剤抵抗性対策の新たな展開
1.17	十和田市	J A全農あおもり	西澤登志樹、鎌田直人、齋藤生	ながいも共進会
1.18	十和田市	J A全農あおもり	西澤登志樹、鎌田直人、齋藤生、今智穂美、前嶋敦夫、鈴木聡	ながいもフォーラム
1.24～25	津市	農研機構	細田洋一、鈴木聡、新藤潤一、加賀友紀子	委託プロ加工野菜成績設計検討会
1.24	青森市	県農産園芸課	細田洋一、鎌田直人	「攻めの農林水産業」推進本部農産園芸部会
1.26	青森市	県農産園芸課	西澤登志樹	ながいも生産流通対策会議
1.26～27	盛岡市	東北農業研究センター	今満、新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	東北農業試験研究推進会議生産環境部会病害虫研究会
1.26～27	盛岡市	東北農業研究センター	今智穂美	東北農業試験研究推進会議生産環境部会土壌研究会
1.30～31	盛岡市	東北農業研究センター	町田創	東北農業試験研究推進会議作物生産推進部会作業技術研究会
1.31～2.1	つくば市	農研機構	新藤潤一、加賀友紀子	SIP事業新規土壌還元消毒技術成績検討会、体系化検討会
2.1～2	盛岡市	東北農業研究センター	西澤登志樹、鎌田直人、細田洋一、前嶋敦夫、今智穂美、齋藤生	東北農業試験研究推進会議野菜花き部会
2.10	青森市	県農林水産政策課、農林総合研究所	西澤登志樹、今智穂美	水田農業革新技術成果発表会
2.23～2.24	仙台市	農研機構	新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	北日本病害虫研究会第70回研究発表会
2.23	青森市	東北農政局	西澤登志樹、鎌田直人、細田洋一	マッチングフォーラム
3.1	青森市	県農産園芸課	前嶋敦夫	小麦・大豆生産流通協議会幹事
3.2～3	東京都	農研機構	新藤潤一、加賀友紀子	SIP事業成績検討会、設計検討会
3.7	六戸町	野菜研	今満、今智穂美、新藤潤一、加賀友紀子、青山理絵	第3回イモグサレセンチュウ研究連絡会議
3.7	十和田市	上北地域県民局地域農林水産部	西澤登志樹	「攻めの農林水産業」推進上北地方本部会議
3.9～10	さいたま市	生研機構	齋藤生	生研機構報告会、作物別野菜分科会
3.10	弘前市	弘前大学	新藤潤一、今智穂美	弘前大学地域資源利活用シンポジウム
3.10	十和田市	上北地域県民局地域農林水産部	西澤登志樹	上北の元気結集協議会
3.21	八戸市	三八県民局地域農林水産部	今智穂美	八戸平原地域営農推進協議会
3.19～20	藤沢市	日本園芸学会	今智穂美	園芸学会春季大会
3.21	八戸市	三八県民局地域農林水産部	今智穂美	八戸平原地域営農推進協議会
3.21	東京都	農林水産技術会議	西澤登志樹	農林水産技術会議シンポジウム
3.28～29	東京都	日本応用動物昆虫学会	新藤潤一	日本応用動物昆虫学会大会
3.27～30	十和田市	日本農業気象学会	町田創、西澤登志樹、今満、細田洋一、齋藤生	日本農業気象学会大会 気象学会シンポジウム

⑥ 視察受け入れ

部所	案内件数	来所者数	視察、見学内容
所長、総務	1	3	ナガイモ、ニンニク栽培技術 施設
栽培部	6	25	イチゴ、ナガイモ、ニンニク栽培技術
品種開発部	4	66	ナガイモ、ニンニク品種開発
病虫部	5	102	病害虫全般
計	16	196	

⑦ 研修受け入れ

ア 新規任用普及指導員専門技術向上研修

受け入れ部所	研修部門	人数	期間
栽培部 品種開発部 病虫部	野菜	2名	28.6.20～7.1 28.11.14～11.25

イ インターンシップ

受け入れ部所	研修部門	所属・人数	期間
栽培部 品種開発部 病虫部	野菜	三沢五中 2名	28.7.5～6
栽培部 品種開発部 病虫部	野菜	弘前南高 13名	28.8.23

III 職員研修

1 国内研修

職・氏名	所属部所	研修内容	派遣先	派遣期間
栽培部長 鎌田直人	栽培部	第199回農林交流センター ワークショップ 植物科 学・作物育種におけるフェ ノーム解析	農林水産技術会 議事務局筑波産 学連携支援セン ター	H28.7.7～8
研究員 加賀友紀子	病虫部	植物病害診断教育プログ ラム	法政大学植物医 科学センター	H28.8.29～9.2
主査 河村里子	栽培部	労働基準法セミナー	(一社)日本経 営協会	H28.7.7～8
研究員 町田創	栽培部	粳穀培地セミナー	岩手大学	H28.11.9

2 県・産技センター研修

(1)青森県・産技本部・人材育成委員会

職・氏名	研修内容	派遣先	派遣期間
所長 研究管理監 西澤登志樹 今 満	研究所長研修	青森産技	H28.5.16
栽培部長 鎌田直人	人事評価研修	青森産技	H28.5.20
主任研究員 研究員 對馬由記子 青山理絵	S W O T 初級研修	青森産技人材育 成委員会	H28.7.1
所長 西澤登志樹 ほか	ホームページ講習会	青森産技	H28.7.7
栽培部長 鎌田直人	研究部長クラス研修	青森産技人材育 成委員会	H28.7.11
所長 研究管理監 西澤登志樹 今 満 栽培部長 品種開発部長 鎌田直人 細田洋一 主査 河村里子	メンタルヘルス及び安全衛生研 修会	青森産技安全衛 生推進委員会	H28.7.22
研究員 齋藤生	自主研修 試験成果を生産現場 へ導入・普及する進め方研修	青森産技 / 農林 総合研究所	H28.8.10
所長 西澤登志樹 主任研究員 研究員 鈴木聡 町田創	情報セキュリティ研修	青森産技	H28.10.14
研究管理員 主任研究員 新藤潤一 今智穂美 研究員 研究員 齋藤生 町田創 研究員 青山理絵	コンプライアンス&研究倫理研 修	青森産技人材育 成委員会	H28.11.22
研究員 齋藤生	V cup研修	青森産技人材育 成委員会	H28.11.16
品種開発部長 栽培部長 細田洋一 鎌田直人	人事評価研修	青森産技	H28.12.6
所長 研究管理監 西澤登志樹 今満	人事評価研修	青森産技	H28.12.7
所長 研究管理監 西澤登志樹 今満 品種開発部長 栽培部長 細田洋一 鎌田直人	見える化研修	青森産技	H28.12.14

(2) 野菜研究所独自研修

項目	研修内容	講師	研修期間
野菜研セミナー	労働安全衛生講習会	所長 西澤登志樹	H28.4.1
野菜研セミナー	①四季成り性イチゴ品種「なつあかり」の春定植作型における冷蔵ランナー苗を用いた挿し苗育苗方法の検討 ②積雪メッシュデータによる小麦品種「もち姫」の栽培適地の推定	①研究員 町田創 ②研究管理員 前嶋敦夫	H28.8.5
野菜研セミナー	情報セキュリティ研修	主任研究員 鈴木聡	H28.11.11
野菜研セミナー	①燃費削減とくぼみ症を軽減するニンニク間断乾燥技術 ②イモグサレセンチュウ防除対策の取組み	①主任研究員 今智穂美 ②研究員 青山理絵	H29.2.8
野菜研セミナー	①旅費入力時の注意点 ②支出など起案作成時の注意点	①主査 河村里子 ②主幹 工藤達哉	H29.2.9
野菜研セミナー	青森県におけるニンニクの生育および収量に及ぼす気象の影響	主任研究員 今智穂美	H29.3.14
野菜研セミナー	統計解析の解説と実際	所長 西澤登志樹	H28.8.5 H29.3.14

IV 種苗の生産と配付

1 作物の原原種の採種

種 類	品 種	面積 (a)	採種量 (kg)	備考 採種場所等
そば	階上早生	160	41	野菜研究所

2 種苗等の配付

(1) 種苗の配付

種 類	品 種	数量 (kg)	配 付 先
そば	階上早生	500	青森県農産物改良協会
なたね	キザキノナタネ	15	青森県農産物改良協会
ながいも	園試系6	250 むかご	全農あおもり
にんにく	福地ホワイト (黒石A系統)	400 りん球 珠芽	全農あおもり

注. 旧年産の種子も含む。

IV 資格取得

職・氏名	所属部所	資格内容
技能技師 沼畑至宏 技能技師 相坂和幸	栽培部	床上操作式クレーン運転技能
研究員 加賀友紀子 研究員 青山理絵	病虫部	第一種圧力容器取扱作業主任者

VI 総 務

1 位置・土地・建物

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91

北緯 40° 38′

東経 141° 21′

標高 53m

土地	3,557 a
建物敷地	138 a
畑	2,066 a
道路・その他	1,353 a
建物	9,177㎡

2 所掌事務・分掌事務

(1) 所掌事務

- ア 野菜及び畑作物の試験研究に関する事。
- イ 野菜及び畑作物の種苗の育成及び配布に関する事。

(2) 栽培部の分掌事務

- ア 野菜研究所の庶務に関する事。
- イ 野菜の栽培改善の試験研究に関する事。
- ウ 野菜に係る農業機械及び農業施設の利用及び改善の試験研究に関する事。
- エ 野菜の施肥改善、作物栄養の試験研究に関する事。
- オ 野菜の鮮度保持及び貯蔵の試験研究に関する事。

(3) 品種開発部の分掌事務

- ア 野菜及び畑作物の品種質改良の試験研究に関する事。
- イ 野菜の品種の適応性等の試験研究に関する事。
- ウ 野菜の種苗生産に関する事。
- エ そば、なたねの原原種の生産及び原種の増殖に関する事。

(4) 病虫部の分掌事務

- ア 野菜の病害虫防除の試験研究に関する事。

3 組織・職員

(1) 組織・職員数

人員：職員26名（プロパー職員7名、派遣職員6名、非常勤職員5名）

区 分	研究職員	事務職員	技能技師	非 常 勤 職 員	計
所 長	1				1
栽 培 部	4			2	6
研 究		※2	3	1	6
庶務・業務					
品種開発部	4				4
病 虫 部	4			3	7
計	13	※2	3	6	24

※農産物加工研究所と兼務

4 事務分担

(1) 所長

特 命 事 項	職 名	氏 名
1 所の管理、運営の総括に関する事	所 長	西澤 登志樹

(2) 栽培部（試験研究）

部 長 鎌田 直人

分 担 事 務	主 担	副 担
1 栽培部に係る業務の総括に関する事 2 野菜の栽培・貯蔵に関する渉外、指導及び研修全般に関する事 3 青森ナガイモの飛躍を目指した生育予測技術と長大系ナガイモ「園試系23号」を活用した輸出規格対応技術に関する事 4 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術のうちナガイモに関する事	部長 鎌田 直人	副部長 (主任研究員) 今 智穂美
1 部に係る業務の総括補佐に関する事 2 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術のうちニンニクに関する事 3 水田農業を核とした土地利用型農業技術の現地実用化、青森にんにく革新技術確立事業のうち貯蔵品質に関する事 4 新たな土壌管理による高品質農産物生産技術に関する事 5 作物栄養、土壌管理に関する事	副部長 (主任研究員) 今 智穂美	研究員 齋藤 生 研究員 町田 創
1 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術のうちナガイモに関する事 2 しじみ・ひめます産地力アップ対策事業に関する事 3 野菜の貯蔵・鮮度保持に関する事 4 加工・業務用野菜に関する事 5 小麦作況試験に関する事	研究員 齋藤 生	部 長 鎌田 直人 研究員 町田 創
1 青森ブランド野菜販売力強化のための新作型開発研究のうち夏秋イチゴに関する事 2 野菜の生育調節剤・除草剤に関する事 3 野菜の機械及び機械化に関する事 4 農業施設、資材の利用に関する事 5 気象観測・作況試験・生産情報の編集に関する事	研究員 町田 創	部 長 鎌田 直人 主任研究員 今 智穂美
1 試験研究の補助に関する事	非常勤労務員 佐藤 渚 松村 沙織	

裁 培 部(事 務 関 係)

部 長 鎌 田 直 人

分 担 事 務	主 担	副 担
1 庶務に係る業務の総括に関する事 2 印章の管守に関する事 3 行事予定の管理に関する事 4 労働安全衛生に関する事 5 情報公開及び個人情報保護等に関する事 6 セクハラ相談に関する事	部 長 鎌 田 直 人	主 幹 工 藤 達 哉 主 査 河 村 里 子
1 予算執行管理に関する事 2 収入に関する事 3 支出契約決議に関する事 4 財産及び物品の管理に関する事 5 車両の配車等に関する事	主 幹 工 藤 達 哉	主 査 河 村 里 子 非常勤労務員 田 中 礼 子
1 職員の服務に関する事 2 職員の福利厚生に関する事 3 労働安全衛生に関する事 4 非常勤職員等に関する事 5 庶務関係の報告に関する事 6 庁舎内外の清掃・整備に関する事	主 査 河 村 里 子	主 幹 工 藤 達 哉 非常勤労務員 田 中 礼 子
1 文書の収受、発送及び保管に関する事 2 服務関係書類の整理に関する事 3 物品・図書の管理の補助に関する事 4 経理事務の補助に関する事 5 復命書及び旅行管理簿の整理に関する事	非常勤労務員 田 中 礼 子	主 幹 工 藤 達 哉 主 査 河 村 里 子
1 農場運営方針の推進に関する事 2 耕作作業の改善・合理化に関する事 3 農場員の作業指導に関する事 4 農場機械等の整備及び管理に関する事	技 能 技 師 山 本 勝 浩 沼 畑 至 宏 相 坂 和 幸	
1 車両の整備に関する事	主 幹 工 藤 達 哉	技能技師 山 本 勝 浩 沼 畑 至 宏 相 坂 和 幸

分 担 事 務	主 担	副 担
1 品種開発部に係る業務の総括に関する事 2 品種開発・種苗生産の渉外、指導及び研修等に関する事 3 農場管理委員会に関する事	部 長 細田 洋一	副 部 長 (研究管理員) 前嶋 敦夫 主任研究員 對馬由記子
1 ニンニクの育成素材の養成に関する事 2 ニンニクの遺伝資源の収集・保存に関する事 3 エダマメの遺伝資源の収集・保存に関する事	部 長 細田 洋一	研究管理員 前嶋 敦夫 主任研究員 對馬由記子 主任研究員 鈴木 聡
1 ナガイモ優良品種の開発に関する事 2 特産野菜原原種維持増殖事業(ナガイモ)に関する事 3 青森ナガイモの飛躍を目指した生育予測技術の開発と園試系23号を活用した輸出規格対応生産技術の開発のうち園試系23号の試験に関する事 4 畑作物作況調査(大豆)に関する事	副 部 長 (研究管理員) 前嶋 敦夫	主任研究員 對馬由記子 主任研究員 鈴木 聡
1 ニンニク優良品種開発に関する事 2 特産野菜原原種維持増殖事業(ニンニク)に関する事 3 イチゴ優良品種の開発に関する事 4 ナガイモの遺伝資源の収集・保存に関する事 5 たっこにんにくの弱毒ウイルスの開発の種苗維持に関する事	主任研究員 對馬由記子	部 長 細田 洋一 主任研究員 鈴木 聡
1 エダマメ優良品種の開発に関する事 2 畑作物優良品種の選定に関する事 3 畑作物原原種・原種の生産・供給に関する事 4 ナタネ育成系統特性評価に関する事 5 業務・加工用に適したタマネギ品種及び栽培技術の開発に関する事	主任研究員 鈴木 聡	部 長 細田 洋一 研究管理員 前嶋 敦夫

病 虫 部

研究管理監（部 長） 今 満

分 担 事 務	主 担	副 担
1 病虫部に係る業務の総括に関すること 2 病害虫防除の渉外、指導及び研修等に関すること 3 業務加工用に適したタマネギ栽培技術開発事業の病害虫防除に関すること	部 長 （研究管理監） 今 満	副 部 長 （研究管理員） 新藤 潤一
1 天敵等を利用した野菜害虫防除技術の開発に関すること 2 ダイコンのキズジノミハムシなど特産野菜害虫の発生生態の解明及び防除技術に関すること 3 ウイルス病害の感染制御技術に関すること 4 新農薬開発試験（殺虫剤）に関すること 5 虫害防除の指導及び研修等に関すること	副 部 長 （研究管理員） 新藤 潤一	部 長 今 満 研究員 加賀 友紀子 研究員 青山 理絵
1 青森にんにく革新技術実用化事業のうち土壌病害防除対策の確立研究に関すること 2 新規還元土壌消毒技術の開発に関すること 3 業務加工用に適したタマネギ栽培技術開発事業の病害虫防除に関すること 4 新農薬開発試験（殺菌剤）に関すること 5 病害防除の指導及び研修等に関すること	研究員 加賀 友紀子	部 長 今 満 研究員 青山 理絵
1 ニンニク土壌病害虫のうちイモグサレセンチュウの診断技術と防除に関すること 2 生物くん蒸消毒による土壌病害虫防除技術に関すること 3 抗線虫資材の選定に関すること 4 特産野菜の土壌病害・線虫害の防除技術に関すること 5 新農薬開発試験（殺線虫剤）に関すること	研究員 青山 理絵	部 長 今 満 研究管理員 新藤 潤一 研究員 加賀 友紀子
1 試験研究の補助に関すること（品種開発部と兼務）	非常勤労務員 吉田 善枝 五十嵐 あこ 中村 美幸	

ニンニク病害虫特別対策プロジェクトチーム

分 担 事 務	主 担	副 担
1 プロジェクトチームの総括に関すること	所長 西澤登志樹	研究管理監 今 満 研究管理員 木村 勇司 (農林総研本務)
1 ニンニクイモグサレセンチュウ等虫害の防除技術に関すること	研究管理員 新藤 潤一 研究管理員 木村 勇司 (農林総研本務)	研究管理監 今 満 研究員 青山 理絵
1 ニンニク病害の防除技術に関すること	研究管理員 岩間 俊太 (農林総研本務) 研究員 加賀友紀子	研究管理監 今 満 研究管理員 新藤 潤一
1 ニンニクの優良種苗の確保に関すること	主任研究員 對馬由記子	品種開発部長 細田 洋一 研究管理監 今 満

5 平成28年度予算

(1) 全体予算（決算額）

（単位：千円）

目・細目	28年度 決算額	左 の 財 源	
		県交付金	その他
職員人件費	123,961	123,961	
研究業務費（開発、支援研究）	6,523	6,523	
研究費交付金事業費	12,929	12,929	
受託研究費	12,459		12,459
法人調整費	5,800	5,800	
管理運営費	39,758	39,758	
計	201,430	188,971	12,459

(2) 研究業務費（役員特別枠、開発研究、支援研究）

区分	整理番号	分類	研究課題名・事業名	期間		H28予算額(千円)		
				始	終	予算	収入	交付金
役員特別枠	役員枠	イ(イ)④	青森ナガイモの飛躍を目指した生育予測技術の開発と園試系23号を活用した輸出規格対応生産技術の開発	28	29	1,400	0	1,400
開発	野Ⅱ-1	イ(イ)①	青森ブランド野菜の高品質安定生産・貯蔵技術の研究開発	26	30	981	0	981
開発	野Ⅱ-2	ア(イ)③	特産野菜優良品種の育成	26	30	1,052	0	1,052
開発	野Ⅱ-3	ウ(イ)②	気象変動や生物多様性に適応した特産野菜の安全・安心な病害虫管理技術の研究開発	26	30	1,696	0	1,696
開発	農Ⅱ-5	ウ(ア)①	新たな土壌管理による高品質農産物生産技術の開発研究	27	30	200	0	200
小計						5,329		5,329
支援	農Ⅱ-101		農作物の生育状況等に関する調査	26	30	61	0	61
支援	農Ⅱ-102		本県に適する優良品種の選定	26	30	283	0	283
支援	農Ⅱ-103		農作物の種苗等生産	26	30	705	0	705
支援	農Ⅱ-104		遺伝資源の維持・収集	26	30	145	0	145
小計						1,194		1,194
計								6,523

(3) 競争的資金研究

No.	研究課題名	実施期間	金額 (千円)	委託元
1	SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)「次世代農林水産業創造技術」「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発	H26～30	5,070	(独)農研機構中央農業研究センター
2	業務加工用に適したタマネギ品種及び栽培技術の開発事業費	H26～30	1,850	(独)農研機構中央農業研究センター
計			6,920	

(4) 受託研究・補助事業(国・自治体)

No.	研究課題名	実施期間	金額 (千円)	委託元
1	「たっこにんにく」をまもる弱毒ウイルスの利用技術開発	H24～28	500	田子町
2	青森にんにく革新技術実用化事業	H28～29	10,134	農産園芸課
3	水田農業革新技術緊急普及事業	H27～28	576	農林水産政策課
4	農薬安全国内検査推進事業	H28～29	300	食の安全安心推進課
5	農薬低減技術確立事業	H28～29	1,141	食の安全安心推進課
6	しじみひめます産地力アップ	H27～28	778	三八地域県民局
7	寒冷地におけるなたね育成系統の特性評価	H27～28	175	東北農業研究センター
計			13,604	

(5) 受託研究(民間・団体等)

No.	研究課題名	実施期間	金額 (千円)	委託元
1	新農薬の実用化試験	H28	4,140	(社)青森県植物防疫協会
2	新植物調節剤実用化試験	H28	324	(財)日本植物調節剤研究協会
5	だいこんのキスジノミハムシに対するフォース粒剤の効果的な処理方法の検討	H28	400	シンジェンタジャパン(株)
計			4,864	

(6) 青森県産業技術センター委員会

委員会	委員
労働安全委員会	鈴木聡
広報委員会	新藤潤一
人材育成委員会	今 満
商品PR促進委員会	前嶋敦夫

VII 野菜研究所圃場利用図（平成28年度春夏作）

平成28年4月14日作成

